各位
<ご参考迄>

「うなばら」（昭和57年5月5）<1982年>

<大阪商船三井船舶（株）>
月刊・社内報

Cambridge Circus（B1階）"カトレア"　大阪商船三井船舶株式会社

ロンドン・ジャパニーズ
創立第一戦

ロンドン支店

四月初旬、「本場で結成したラグビー・クラブ　宿願の創立戦」との見出しで始まる記事が、某大手スポーツ紙に載った。メンバーはと見れば、水谷・宿沢と言った元日本代表に混じり、わが社（住友銀行）ロンドン支店在籍者三名、佐々木・岡本・池川の名前あり。

試合は、四月四日"LJRFC（ロンドン・ジャパニーズ）"と創立九十八年を迎えたロンドンの名門クラブチーム"エプソム"との間で行われ、試合は22：46と敗れたが、ロンドンで結成された日本人ラグビークラブチームとしては記念すべき創立第一戦であった。

この第一戦成立に際し、当店佐々木氏の果した役割は大きい。日本人ラグビーチームそのものは、二年ほど前に誕生したが、メンバーもそろわず、年に数回練習する程度の活動であった由。それが、酒の取り持つ縁。決して酒が嫌いではない佐々木氏が、放課後市内某和風スナックで、仲間と共に一杯やっているうち、ちょうど居合わせた水谷氏（リコー／チーム発起人）とラグビー話と相成った。

水谷「メンバーも集まらないし、まだ試合をしたこともない」

佐々木「MOLKは私を含め三名プレーできる者がいる。また、家族同士付き合いのある近所のイギリス人で、"エプソム"のクラブチームで現役としてプレーをしている人を知っているので、試合を申し込んでみる」

昨年末、二人の間で交わされたこの話がきっかけとなり、佐々木氏の交渉の結果、本年早々、四月四日（日）、対"エプソム"との試合が決定。当方の平均年令が三十五歳を超えることもあり、十チーム近くある"エプソム"チームの中から、手ごろと思われる四軍との対戦となった。

当日に備え、二月初めから毎週一度の練習が、週末リージェント・パークにて開始された。最初は練習に五～六人しか集まらぬときもあり、先行きが不安視されたが、試合日が近づくにつれ練習参加者も次第に増え、十五人確保のめどが立つようになった。

後列右端佐々木さん、1人おいて池川さん
3人おいて岡本さん
前列右から2人め宿沢さん（住友銀行）、水谷さん（リコー）

当日は、雲一つない"イギリス晴れ"。最多メンバーを送り出したわが社の三名を含め、初めて隣を通す白と濃紺の横しまジャージーを身につけ全員グラウンドに集合／グラウンドの周囲には、家族・知人など五十人ほどが応援に駆けつけた。

二時キック・オフのつもりでウオーミング・アップの後、待つこととしばし。相手がなかなか現れず、武蔵を待つ小次郎の心境でいると、いくぶんくたびれかかった、良く使い込んだジャージーの一団が、クラブハウスから赤ら顔で登場。なぜ遅れたのかと理由をただすと、「二時半過ぎまでパブが開いているのでその間は楽しく飲み、ラグビーのプレーは三時から」との返事。

当初二十分ハーフの予定が、学生さん並みの三十五分ハーフと全員くたくた。練習不足もあり、後日、頭・肩・胸・脚などに故障を訴える者続出。それでも、負けたとは言え、全部で五トライを奪った。その内三つは、元全日本代表永谷・宿沢両氏によるもの。特筆すべきは、残り二トライの内一つは、かつて柿生グラウンドで華麗なプレーを披露したわが社岡本氏によるもの。

来年以降、毎年四月第一日曜日に"ロンドン・ジャパニーズ"対"エプソム"の定期戦が行われることとなったが、日本人チームとしての第一戦を取り決めた佐々木氏、その記念すべき試合でトライをした岡本氏、ラグビーの本場イギリスの当地ロンドンでも、「MOラガーここにあり!!」

（池川）

231-7111

夫

本場で結成したラグビー・クラブ

宿願の創立戦

家族など70人の大部隊

昨年3月"定期戦"の契約も

三軍に敗れたが　宿沢ら大暴れ

◆日本代表◆

4月7日付サンケイスポーツ